

第31回熱測定ワークショップ

『熱測定標準物質を考える』

熱分析の応用範囲が広がるに伴って、日本工業規格（JIS）や薬局方などに熱分析を用いた評価法が採用され、今後は品質管理や品質保証の分野での利用が多くなると予想される。その結果、熱分析データにはより高い信頼性と再現性が不可欠となり、さらにはデータの「国際標準または国家標準へのトレーサビリティ」が求められるであろう。しかし現状は、熱分析の国際標準であるICTAC-NISTの標準物質が入手しにくく、熱分析に携わる者にとっては憂慮される状況である。

このような現状をふまえ、標準化作業グループは標準物質の問題点、現状の調査を行ってきた。本年は、IUPAC化学熱力学会議とICTACが8月に開催され、標準物質に関するシンポジウムが予定されている。本ワークショップでは、標準物質に関わる国内外の動きを分析し、日本熱測定学会は何をすべきかを考える機会にしたい。第36回熱測定討論会の前日に開催するので、多くの方の参加とご意見をいただきたい。

世話人：標準化作業グループ

主 催：日本熱測定学会

協 賛：日本化学会，日本分析化学会，日本熱物性学会

日 時：2000年11月8日（水）13：30～17：30

会 場：近畿大学 10号館 10階 会議室（<http://ccpc01.cc.kindai.ac.jp/annai/campas.htm>を参照）

プログラム

13:30 - 13:40 インTRODクシヨンリマーク

13:40 - 14:10 標準物質の抱える問題点

吉田 博久（都立大）

14:10 - 14:40 ISOと標準物質 - 何が手にはいるか？ -

西本 右子（神奈川大）

14:40 - 15:10 標準物質に関する日本の動向 - 標準物質を巡る動き -

木村 隆良（近畿大）

15:10 - 15:30 休 憩

15:30 - 16:10 標準物質に関する世界の動向 - ICCT2000での話題 -

阿竹 徹（東工大）

16:10 - 16:40 標準化と品質保証に関する世界の動向 - ICTAC12での話題 -

小棹 理子（湘北短大）

16:40 - 17:30 自由討論 熱測定学会がすべき事

・学会が標準物質を取り扱うにはどうしたら良いか？

・どのような標準物質が必要か？

参加費：日本熱測定学会会員および協賛学協会会員は無料，非会員 1,000円

資料代：500円（消費税込み）

参加申込方法：参加者氏名（ふりがな），所属団体名，所属部署名，連絡先（住所，TEL番号，FAX番号，e-mailアドレス）を郵送，FAX，またはe-mailにて10月31日までに下記宛お申込みください。参加証・地図を送付いたします。

日本熱測定学会 31WS 係 〒101-0032 東京都千代田区岩本町1-6-7 宮沢ビル601

TEL. 03-5821-7120, FAX. 03-5821-7439, e-mail: QYZ05607@nifty.ne.jp